

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Histologic pattern analysis of basal cell carcinoma. Study of a series of 1039 consecutive neoplasms	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌における組織学的パターン分類	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCQ7-11	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ V ）	
	Pubmed ID	2273112	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	23	
	号	6	
	ページ	1118-26	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	1990		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Sexton M	Department of Pathology, M.S.Hershey Medical Center, The Pennsylvania State University
	その他著者 1	Jones D	
	その他著者 2	Maloney M	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目		目的	基底細胞癌の組織学的なパターン分類を行い、切除後の根治性について検討する
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	Pennsylvania 大学	
	対象者	BCC 1039 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	外科的切除 467 例、shave biopsy 441 例、punch biopsy 130 例、curettage 1 例。	
	エンドポイント (評価)	エンドポイント	区分
	1	断端陽性率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	外科的切除後の断端陽性率は、結節型 6.4%、表在型 3.6%、微小結節型 18.6%、浸潤型 26.5%、morphea 型 33.3%であった。結節型と断端陽性率は有意な相関あり (P<0.001)	
	結論	組織型によっては腫瘍が取りきれない場合がある。このような場合は広範囲の切除を行ったり、Mohs 法を用いて治療計画を立てる必要がある。	
	備考		
レビューコメント	レビュー氏名	神谷芳彦	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 組織分類の定義がやや不明瞭である。	

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Skin cancer: a review with consideration of treatment options including Mohs micrographic surgery	
	論文の日本語タイトル	皮膚癌に関して、Mohs 手術も含めた治療オプションのレビュー	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ()	
	ガイドライン上の目次名称	BCCQ7-12	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	2234766	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ohio Med	
	雑誌 ID		
	巻	86	
	号	10	
	ページ	745-7	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
発行年月	1990		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Lambert DR	Ohio State University
	その他著者 1	Siegel RJ	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目		目的	皮膚癌の BCC と SCC について治療法を検証する
	データソース	不明	
	研究の選択	不明	
	データ抽出	不明	
	主な結果	312 例の皮膚癌患者を Mohs 法で治療した。BCC は原発 248 例、再発が 103 例含まれている。この治療の適応は、 ①再発例 ②解剖学的に高リスク部位の再発例 ③腫瘍サイズの大きい例 ④組織学的に浸潤傾向のある例 ⑤不完全切除例 ⑥機能的整容的に重要な部位 に適応がある。	
	結論	Mohs 手術は、鼻・眼・耳の近傍の高リスク部位により適応がある。さらにサイズの大きい腫瘍、モルフェア型、不完全切除例、再発例、そして整容的機能的に重要な場所にも適応がある。	
	備考		
レビューコメント	レビュー氏名	神谷芳彦	
	レビューコメント	エビデンスのレベル分類 (1) MMS の適応を検討しているが、我國の実情にはそぐわないかもしれない。厳密にはシステマチック・レビューではないが、詳細に検討されており、それに準ずるものと評価した。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Basal cell carcinoma treated with Mohs surgery in Australia II Outcome at 5-year follow-up	
	論文の日本語タイトル	オーストラリアにおける基底細胞癌に対する Mohs 手術。5 年後の治療成績	
診療科・科の情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文以上の目次名称	BCCQ7-13	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	16112352	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	53	
	号	3	
	ページ	452-57	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.哲学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2005		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Leibovitch I	Oculoplastic and Orbital Devison, Department of Ophthalmology an Visual Sciences, Royal Adelaide Hospital, University of Adelaide
	その他著者 1	Huigol C	
	その他著者 2	Selva D	
	その他著者 3	Richards S	
	その他著者 4	Paver R	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
その他著者 9			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対する Mohs 手術の有用性を検討した	
	研究デザイン	コホート研究	
	セッティング	Adelaide 大学	
	対象者	BCC 患者 3370 例 (初発 1886 例、再発 1484 例)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	Mohs 手術	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	5年再発率は初回病巣で1.4%であり、再発病巣は4%であった。再発予測因子として、再発歴、Mohs手術前の期間、浸潤性の組織型、Mohsのステージ数であった。		
結論	Mohs手術における5年再発率は低く、有用な治療法である。		
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) ひとつの治療手段として有用である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Correlation of histologic subtypes of primary basal cell carcinoma and number of Mohs stages required to achieve a tumor-free plane	
	論文の日本語タイトル	原発 BCC の組織学的なサブタイプと Mohs 手術により腫瘍残存を認めなくなるまでの回数との関係	
診療科・科の情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文以上の目次名称	BCCQ7-14	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	930852	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Am Acad Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	37	
	号	3 Pt 1	
	ページ	395-7	
	ISSN ナンバー	0190-9622	
	雑誌分野	1.医学 2.哲学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Orengo IF	Harvard Medical School, Boston Baylor College of Medicine, Houston
	その他著者 1	Salasche SJ	Harvard Medical School, Boston University of Arizona, Tucson
	その他著者 2	Frewkes J	Harvard Medical School, Boston
	その他著者 3	Khan J	Harvard Medical School, Boston
	その他著者 4	Thornby J	Veterans administration Medical Center
	その他著者 5	Rubin F	Harvard Medical School, Boston
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		

一次研究の 8 項目	目的	原発 BCC の組織学的なサブタイプと Mohs 手術により腫瘍残存を認めなくなるまでの回数との関係を検証した。		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	米国の 3 大学と総合病院 1 施設		
	対象者	Mohs 手術を行った BCC342 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	Mohs 手術を行った症例に対して組織学的なサブタイプを特定し、各々の Mohs 手術のステージを比較検討する。		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	Mohs 手術	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	組織学的なサブタイプ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)		
3	Mohs stage	1.主要 2.副次 3.その他 (2)		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果	4) 腫瘍残存を認めなくなるまでに、Mohs stage が 2 回以内 254 例 (74.3%) 3 回以上 88 例 (25.7%) 5) 組織学的サブタイプと Mohs stage の関係			
	subtype	Stage2	Stage3+	
	nodular	81.6%	18.4%	
	Micronodular	62.0%	37.0%	
	Infiltrative morphea			
	6) 切片中のどこに腫瘍が残存していたか			
	location	Stage 2 (%)	Stage 3+ (%)	
	Peripheral	27	77	
	Deep	18	7	
	Both	15	15	
	unknown	40	0	
結論	Aggressive なサブタイプ (infiltrative, morpheaform, micronodular,mixed)の BCC では、腫瘍残存を認めなくなるまでの Mohs 手技の回数が増える。			
備考				

レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅳ） 深部より辺縁の断端に腫瘍が残存しやすい傾向にあるというデータを示している。

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ転入欄		
基本情報	対象疾患	基底細胞癌		
	タイプ	システマティックレビュー		
タイトル情報	論文の英語タイトル	A systematic review of treatment modalities for primary basal cell carcinomas		
	論文の日本語タイトル	原発性基底細胞癌の治療手段に関するレビュー		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドライン上の目次名称	BCCCQ7-15		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)		
	Pubmed ID	10522664		
	医中誌 ID			
	雑誌名			
	雑誌 ID	Arch Dermatol		
	巻	135		
	号	10		
	ページ	1177-83		
	ISSN ナンバー			
		雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	1999		
著者情報		氏名	所属機関	
		筆頭著者	Thissen MR	Maastricht Medical Center
		その他著者 1	Neumann MH	
		その他著者 2	Schouten Lj	Comprehensive Cancer Center
		その他著者 3		
		その他著者 4		
		その他著者 5		
		その他著者 6		
		その他著者 7		
		その他著者 8		
		その他著者 9		
	その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法別再発率を検討する
	データソース	MEDLINE, EMBASE, CANCELRLIT
	研究の選択	基底細胞癌に対して、通常の手術治療、Mohs 手術、凍結療法、C&E、放射線治療、免疫療法、PDT を施行した研究を選択した。
	データ抽出	298 文献のうち 18 文献を抽出した。除外した文献は、過渡的研究、5 年未満の経過観察期間、50 例未満の症例報告、レビュー、重複投稿、整合性の報告論文である。
	主な結果	再発率に関しては、Mohs 手術 1.1%、通常の手術 5.3%、凍結療法 4.3%、C&E 13.2%、放射線治療 7.4%、免疫療法 21.4%であった。
	結論	再発率の違いに関しては、解析方法が異なるために単純な比較はできない。 ① Mohs 法：サイズの大きい腫瘍、高リスク領域に発生したモルフェア型に適応がある。 ② 通常の切除：結節型、表在型の小さい腫瘍 他の治療は原則として手術が適応にならない症例に用いるべきで、免疫療法や PDT は研究段階の治療として位置づけられている。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（Ⅰ） 治療法別に再発率を検討した比較的新しいレビューである。

BCC CQ8 (1)

一次研究用フォーム		データ配入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Factors influencing the linear depth of invasion of primary basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	初発基底細胞癌において深部浸潤に影響する因子	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の日次名称	BCCCCQ8-1	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID	11298714	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatologic Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	27	
	号	4	
	ページ	393-396	
	ISSN ナンバー	pISSN: 1076-0512 eISSN: 1524-4725	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2001		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Takenouchi T	Niigata Cancer Center Hospital
	その他著者 1	Nomoto S	
	その他著者 2	Ito M	
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
その他著者 8			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌の深部浸潤に影響する因子を特定する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	日本の大学病院と総合病院の2施設	
	対象者	基底細胞癌（初回治療）235例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)	
	介入（要因曝露）	年齢、性別、罹病期間、部位、腫瘍径、組織型、潰瘍形成の7因子を共変量とした重回帰分析	
	エンドポイント(7項目)	エンドポイント	区分
	1	腫瘍周囲健康部皮膚表面から腫瘍最深部までの垂直径 (invasion index)	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	年齢、性別、罹病期間、部位、腫瘍径、組織型、潰瘍形成の7因子の中で男性(p=0.0003)、大きな腫瘍径(p=0.0011)と infiltrative、morpheic、micronodular の組織型(p=0.0019)の3因子が invasion index に対して有意な影響力を持っていた。		
結論	基底細胞癌の手術計画を立てるにあたっては、性別、腫瘍径、組織型の3因子を考慮したうえでの切除深部設定が必要である。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 基底細胞癌の深部浸潤について検討した研究報告は少ない。本研究が切除の際の適切な深部浸潤についての明確な示唆を与えるものではないが、それを決定する際のハイスコア症例の選別基準には必要なデータと思われる。日本人を対象としており、多変量解析として行われた点は重要である。	

BCC CQ8 (2)

一次研究用フォーム		データ配入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の組織型と深部浸潤	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の日次名称	BCCCCQ8-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	2000262825	
	雑誌名	臨床皮膚科	
	雑誌 ID		
	巻	54	
	号	7	
	ページ	481-484	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)		
発行年月	2000		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	竹之内辰也	新潟県立がんセンター
	その他著者 1	山田 聡	新潟大学
	その他著者 2	野本重敏	
	その他著者 3	山口英郎	
	その他著者 4	伊藤雅章	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
その他著者 8			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌の深部浸潤度を評価し、組織型との関連を検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	日本の総合病院と大学病院	
	対象者	基底細胞癌患者 249例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (1)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)	
	介入（要因曝露）	組織学的な深部浸潤の程度を、垂直径と皮下組織への浸潤率で評価	
	エンドポイント(7項目)	エンドポイント	区分
	1	深部浸潤径	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	皮下組織への浸潤率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	深部浸潤径は nodular が 1.6mm、infiltrative が 2mm、morpheic が 3.6mm、micronodular が 3.2mm、superficial が 0.6mm であった。皮下組織への浸潤率はそれぞれ、33.3%、53.2%、60%、69%、0%であった。		
結論	Infiltrative、morpheic、micronodular の3型は皮下浸潤率がいずれも50%を超えていた。これらに対してはより深い切除が必要であり、術後においても再発を念頭に入れた経過観察が必要。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 基底細胞癌の深部浸潤を客観的に評価した報告は少ない。	

BCC CQ8 (3)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Duplicious growth of infiltrative basal cell carcinoma. Analysis of clinically undetected tumor extent in a paired case control study	
	論文の日本語タイトル	浸潤型基底細胞癌における潜在性増殖, 症例対照研究	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCQ8-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない, 専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	8646468	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Dermatologic surgery	
	雑誌 ID		
	巻	22	
	号	6	
	ページ	535-539	
	ISSN ナンバー	pISSN: 1076-0512 eISSN: 1524-4725	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1996		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hendrix JD Jr	University of Virginia School of Medicine
	その他著者 1	Parlette HL	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		

一次研究の8項目	目的	浸潤型基底細胞癌における臨床的に検出できない組織学的浸潤の大きさを, 結節型と比較検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	米国の1大学病院	
	対象者	浸潤型基底細胞癌 139 例 (初発 95 例, 再発 44 例) と結節型基底細胞癌 139 例 (初発 95 例, 再発 44 例)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	浸潤型基底細胞癌 139 例と, 対照として部位, 大きさ, 再発回数, 年齢, 性別, 前治療をマッチさせた結節型基底細胞癌 139 例をコンピュータで選別	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
		1	完全切除までの Mohs 法のステージ数
	2	完全切除に必要な広さ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	完全切除に必要な深さ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	初発, 再発に関わらず Mohs 法における完全切除に要したステージ数 (p=0.0013), 欠損の広さ (p=0.0005), 深さ (p=0.0005) のいずれも浸潤型基底細胞癌の方が結節型より大きかった。		
結論	浸潤型基底細胞癌は結節型に比べて, 側方と深部方向のいずれにおいても subclinical extension が大きい。臨床医は浸潤型基底細胞癌を取り扱う際にはその点に留意する必要がある。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 著者らは今回は浸潤型 (infiltrative type) をハイリスクの組織型として取り上げているが, 別紙に同様の解析手法で微小結節型 (micronodular type) と結節型の症例対照研究も報告している。基底細胞癌においては側方の subclinical extension について検討した研究は多いが, 深部方向についての報告は少ない。今回の結果からは, Mohs surgery の完全切除に要した欠損が皮下脂肪筋層内で留まったのは結節型で 78%, 浸潤型では 51% であり, 基底細胞癌における切除深度の設定に関して一定の示唆は与えている。	

BCC CQ8 (4)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Micronodular basal cell carcinoma. A deceptive histologic subtype with frequent clinically undetected tumor extension	
	論文の日本語タイトル	微小結節型基底細胞癌における臨床的に検出できない腫瘍浸潤	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCQ8-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない, 専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	8607634	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Archives of Dermatology	
	雑誌 ID		
	巻	132	
	号	3	
	ページ	295-298	
	ISSN ナンバー	pISSN 0003-987X eISSN 1538-3652	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1996		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Hendrix JD Jr	University of Virginia School of Medicine
	その他著者 1	Parlette HL	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		

一次研究の8項目	目的	微小結節型基底細胞癌における臨床的に検出できない組織学的浸潤の大きさを, 結節型と比較検討する	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	米国の1大学病院	
	対象者	微小結節型基底細胞癌 69 例 (初発 39 例, 再発 30 例) と結節型基底細胞癌 69 例 (初発 39 例, 再発 30 例)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	微小結節型基底細胞癌 69 例と, 対照として部位, 大きさ, 再発回数, 年齢, 性別, 前治療をマッチさせた結節型基底細胞癌 69 例をコンピュータで選別	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
		1	完全切除までの Mohs 法のステージ数
	2	完全切除に必要な広さ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3	完全切除に必要な深さ	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	初発, 再発に関わらず Mohs 法における完全切除に要したステージ数, 欠損の広さ, 深さのいずれも微小結節型基底細胞癌の方が結節型より大きかった (p<0.001)。		
結論	微小結節型基底細胞癌は結節型に比べて, 側方と深部方向のいずれにおいても subclinical extension が大きい。臨床医は微小結節型基底細胞癌を取り扱う際にはその点に留意する必要がある。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 著者らは今回の微小結節型 (micronodular type) と浸潤型 (infiltrative type) をハイリスクの組織型として取り上げ, 後者については別紙において同様の解析手法で報告している。この結果は基底細胞癌の完全切除に必要な深さが明確に示されているものではないが, Mohs surgery の完全切除に要した欠損が皮下脂肪筋層内で留まったのは結節型で 89%, 微小結節型では 51% であり, 切除深度の設定に関して一定の示唆は与えている。	

BCC CQ8 (5)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Morpheaform basal-cell epitheliomas A study of subclinical extensions in a series of 51 cases	
	論文の日本語タイトル	斑状強皮症型基底細胞癌 51 例における subclinical extension の検討	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCCQ8-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	7240543	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	7	
	号	5	
	ページ	387-394	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Salasche S	University of Tennessee Center for Health Science
	その他著者 1	Amonette R	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
その他著者 7			

一次研究の 8 項目	目的	斑状強皮症型基底細胞癌の subclinical extension を評価する	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	米国の大学病院	
	対象者	斑状強皮症型基底細胞癌患者 51 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (14)	
	介入 (要因曝露)	Mohs surgery を施行した検体において組織学的な腫瘍径を計測し、臨床的に計測した腫瘍径との差を subclinical extension として算出	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	subclinical extension (mm)	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	完全切除に要した Mohs ステージ数	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	水平方向の subclinical extension の平均は 7.2mm、7 例において深部浸潤がみられ、軟骨膜、眼輪筋などに浸潤を認めた。		
結論	斑状強皮症型基底細胞癌においては水平方向、深部方向とも subclinical extension が大きい。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 斑状強皮症型基底細胞癌の 51 例中 7 例 (14%) に皮下脂肪より深部への浸潤を認めている。	

BCC CQ8 (6)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Adequate depth of excision for basal cell carcinoma of the nose	
	論文の日本語タイトル	鼻部基底細胞癌の適切な切除深度	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCCQ8-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)	
	Pubmed ID	11910234	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Annals of Plastic Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	48	
	号	2	
	ページ	214-216	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2002	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Terashi H	大分医科大学
	その他著者 1	Kurata S	
	その他著者 2	Hashimoto H	
	その他著者 3	Asada Y	
	その他著者 4	Shibuya H	
	その他著者 5	Fujiwara S	
	その他著者 6	Takayasu S	
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	鼻部基底細胞癌の浸潤深度を評価し、適切な切除深度を考察する	
	研究デザイン	症例集積研究	
	セッティング	日本の大学病院	
	対象者	鼻部基底細胞癌 88 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	外科的切除	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	深部への浸潤度 (aggressive vs nonaggressive)	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	鼻部を解剖学的構造上 5 つのゾーンに分け、筋層浸潤の有無により aggressive と nonaggressive のいずれかに評価した。I (鼻翼) では 7/12 例、II (鼻翼上部) では 24/27 例が aggressive であったが、III (鼻背側面) は 3/23、IV (鼻背・鼻尖) は 3/21、V (鼻柱) は 0/5 と多くは nonaggressive であった。		
結論	鼻は部位によって基底細胞癌の浸潤度が異なるため、それを考慮した切除深度の設定が必要。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 鼻は基底細胞癌の好発部位であり、なおかつ再発の高リスク部位とされる。	

BCC CQ8 (7)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル		
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌に対する二期的手術の有用性	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の日次名称	BCCQ8-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID		
	医中誌 ID	2000124125	
	雑誌名	皮膚科の臨床	
	雑誌 ID		
	巻	41	
	号	13	
	ページ	2055-2058	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (1)	
	発行年月	1999	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	山田 聡	新潟大学皮膚科
	その他著者 1	竹之内辰也	
	その他著者 2	野本重敏	
	その他著者 3	伊藤雅章	
	その他著者 4	手塚匡哉	
	その他著者 5	兼子泰行	
	その他著者 6	勝海 薫	
	その他著者 7		
その他著者 8			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌に対する二期的手術の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	日本の大学病院	
	対象者	顔面の基底細胞癌患者 27 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (1)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	2~5mm マージンで外科的切除し、翌日に組織学的に所縮確認、翌々日に再建	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	最短 2 年 7 ヶ月、最長 9 年の経過観察で再発例なし。		
結論	手術が 2 回に及ぶデメリットはあるが、術中迅速に比し所縮確認が正確。再発例もなく、特別な手技も要さないことから二期的手術は有用。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 本邦では種々の理由から Mohs surgery の適用は難しい、それに代わる所縮確認の方法としては、凍結切片による術中迅速な三期的手術になるが、その予後成績を評価した報告は少ない。例数が少なく症例集積研究ともいえるが、長期フォローしており、後ろ向きコホート研究に準ずるものと評価した。	

BCC CQ8 (8)

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Staged operations for basal cell carcinoma of the face	
	論文の日本語タイトル	顔面基底細胞癌に対する段階的手術	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の日次名称	BCCQ8-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID	11010777	
	医中誌 ID		
	雑誌名	British Journal of Oral and Maxillofacial Surgery	
	雑誌 ID		
	巻	38	
	号	5	
	ページ	477-479	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2000	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Niederhagen B	Department of Maxillofacial Surgery, University of Bonn
	その他著者 1	Lindern JJ	
	その他著者 2	Berge S	
	その他著者 3	Appel T	
	その他著者 4	Reich R	
	その他著者 5	Kruger E	
	その他著者 6		
その他著者 7			

一次研究の8項目	目的	基底細胞癌に対する段階的手術の有用性を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究	
	セッティング	ドイツの大学病院	
	対象者	顔面基底細胞癌 211 例、279 病巣（初発 191、再発 88）	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	1-2mm マージンで外科的切除、2-3 日で所縮確認後に再建	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	平均観察期間 5 年 (1~11 年) で 7 例 (3%) が再発。		
結論	長期治療率 97% を得られた点では有用。		
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	竹之内辰也	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 対象とした 279 病巣中 88 は再発例であり、組織型別でも斑状強皮症型が 23 例とハイリスク症例を比較的多く含んでいる。その中で再発率 3% は良好な成績といえる。	

レビュー研究用フォーム		データ転入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A systematic review of treatment modalities for primary basal cell carcinomas	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ9-1	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	10522664	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Arch Dermatol	
	雑誌 ID		
	巻	135	
	号	10	
	ページ	1177-83	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1999 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Thissen MR	Maastricht Medical Center
	その他著者 1	Neumann MH	同上
	その他著者 2	Schouten LJ	Comprehensive Cancer Center
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法別再発率を検討する
	データソース	MEDLINE, EMBASE, CANCELRLIT
	研究の選択	基底細胞癌に対し、通常の切除術、Mohs 手術、Cryosurgery、Electrodesiccation、放射線療法、Immunotherapy、Photodynamic therapy を施行した研究を選択。
	データ抽出	298 文献は抽出。言語、疫学学的確定がつかない症例が含まれる、過渡的研究、経過観察が 5 年未満、50 例未満の報告、レビュー、重複投稿、整合性の報告の論文を除外し、18 文献が残った。
	主な結果	再発率 Mohs 手術: 1.1%、通常の切除: 5.3%、Cryosurgery: 4.3%、Curettage および Desiccation: 13.2%、放射線療法: 7.4%、Immunotherapy: 21.4%
	結論	治療法の再発率の違いは報告の仕方 (解析の仕方) が異なるため単純にはできない。Mohs 手術は大きな腫瘍、危険領域に発生した morphoeic-type の腫瘍には用いられるべきである。結節性や表在性の小さな腫瘍では、通常切除術が用いられるべきである。他の治療法は手術が適応とならない症例に用いられる。Immunotherapy と photodynamic therapy は研究段階の治療法である。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	岡井 洋一
	レビューワーコメント	基底細胞癌の治療法別に再発率を検討した貴重なデータ レベル I

レビュー研究用フォーム		データ転入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	BCCCQ9-2	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (I)	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochrane Database Syst Rev.	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ	CD003412	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2003 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	The Cochrane Collaboration
	その他著者 1	Bong J	同上
	その他著者 2	Perkins W	同上
	その他著者 3	Williams HC	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法をシステマティックレビューする
	データソース	Cochrane Database
	研究の選択	疫学学的確定診断がつかない報告のみを選択
	データ抽出	報告の抽出は二人の独立したレビューアーにより行った
	主な結果	手術と放射線療法を直接比較したランダム化比較試験は 1 件のみ 手術後と照射後の局所再発のオッズ比: 0.09 (95%CI 0.01-0.67) で手術療法が優れている (手術: 1/174, 照射: 11/173) 手術と放射線の整合性の比較 (良好 手術 87% > 照射 69%) 放射線治療後は色素沈着と毛細血管拡張が出現 (65%/4 年) 凍結療法は便利で安価 (手術との 1 年後の局所再発率に差なし) オッズ比: 0.23 (0.01-6.78) 放射線治療と凍結療法で 1 年の局所制御率は照射が有意に良好 オッズ比: 14.80 (3.17-69)
	結論	多くの試験はリスクの低い症例を対象とした報告であるが、手術と放射線治療が最も有効であり、再発率が低い。特に手術による局所制御率はより高い。他の治療も有用であろうが、手術との有用性の比較がなされていない。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	岡井 洋一
	レビューワーコメント	コクランレビューで信頼度が高い、凍結療法が手術療法と局所再発率に差がないという報告のある一方、放射線治療との比較では低位に劣るとされている。整合性も考えると、現時点では手術療法が最も有用と考えられる。 レベル I

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical excision vs Mohs' micrographic surgery for basal-cell carcinoma of the face: randomised controlled trial	
	論文の日本語タイトル		
参考文献の引用情報	参考文献での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	参考文献上での目次名称	BCCCCQ9-3	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I I ）	
	Pubmed ID	15541449	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Lancet	
	雑誌 ID		
	巻	364	
	号	9 4 7	
	ページ	1766-72	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2004 年	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Smeets NW	Maastricht 大学病院
	その他著者 1	Krekels GA	Catharina 病院
	その他著者 2	Ostertag JU	Maastricht 大学病院
	その他著者 3	Essers BA	Maastricht 大学病院
	その他著者 4	Diksen CD	Maastricht 大学病院
	その他著者 5	Nieman FH	Maastricht 大学病院
	その他著者 6	Neumann HA	Erasmus MC Rotterdam
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	顔面に発生した基底細胞癌において、通常の切除術と Mohs の手術のどちらが優れているかを比較した	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Maastricht 大学病院	
	対象者	374 例（408 部位）の初回治療例と、191 例（204 部位）の再発症例 腫瘍径 1 cm 以上または、組織学的悪性の高いもの 初回治療例 顔面の H ゾーンから発生：89～96% 病理学的悪性：43～52% 最大径の中央値 13.7～15.9 mm 再発例 顔面の H ゾーンから発生：79～83% 病理学的悪性：48～60% 最大径の中央値 17.8～19.4 mm	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	通常の切除術 局所凍瘃（2 例にも全身凍瘃） 3 mm マージンをつけて切除し、直接縫合 断端陽性ではさらに 3 mm マージンをつけて切除 Mohs 手術 3 mm マージンをつけて切除 凍瘃標本を作製し、全ての断端を評価し、陰性になるまで手技を続ける	
	エンドポイント (79124)	エンドポイント	区分
	1	局所切除率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	費用	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	

主な結果	初回治療例の局所再発率 3%（通常切除）vs. 2%（Mohs 手術）（95%CI: 2.5%-3.7%） 再発例の局所再発率 3%（通常切除）vs. 0%（Mohs 手術）（95%CI: 2.0%-5.0%） 以上より、統計学的有意差なし 手術にかかる経費は Mohs 手術の方が高かった。
	初回治療例および再発例とも、通常切除術と Mohs 手術では局所切除率に開き有意差はなかった。再発例における Mohs 手術の成績は良好であったが、統計学的有意差はなかった。
	備考
レビューワーコメント	レビューワー氏名 岡井 洋一
	レビューワーコメント 術式を比較した数少ないランダム化比較試験 Mohs 手術が通常手術に比べ 6.5%良好となると予測し立てられた試験ではあるが、その有用性は証明されなかった。 レベル II

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	基底細胞癌		
	タイプ	医学専門情報		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Observations on the inadequately excised basal cell carcinomas		
	論文の日本語タイトル	不完全切除された BCC における経過観察		
診療が「作」の引用有無	が「作」の引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	が「作」以上の目次名称	BCCCQ10-1		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (V)		
	Pubmed ID	6694405		
	医中誌 ID			
	雑誌名	J Surg Oncol		
	雑誌 ID			
	巻	25		
	号	2		
	ページ	79-80		
	ISSN ナンバー	0022-4790		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	1984		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Sarma DP	Department of Pathology and Dermatology, Louisiana State University Medical School
その他著者 1		Griffing CC		
その他著者 2		Weilbaecher TG		
その他著者 3				
その他著者 4				
その他著者 5				
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

一次研究の 8 項目	目的	不完全切除された BCC における経過観察		
	研究デザイン	症例集積研究		
	セッティング	大学病院		
	対象者	最初の切除で不完全切除と診断され、その後再び切除を行った 43 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	手術時の不完全切除		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	組織学的な腫瘍残存	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	不完全切除の BCC を再度切除したところ、7% (3 例) のみに腫瘍の残存がみられた。		
結論	かつて不完全切除例の 35% に再発がみられるとされた。再切除後に切片を検討したところ、実際の腫瘍の残存は極めて頻度が低いという点を検討した。不完全切除イコール腫瘍残存を意味していない。			
備考				
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (V) 症例数が少ないが、BCC における不完全切除例では、実際の腫瘍の残存はほとんどないという点を強調している。		

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	基底細胞癌		
	タイプ	医学専門情報		
タイトル情報	論文の英語タイトル	The use of Mohs micrographic surgery for determination of residual tumor in incompletely excised basal cell carcinoma		
	論文の日本語タイトル	不完全切除された BCC において残存する腫瘍の評価に Mohs 手術を用いた		
診療が「作」の引用有無	が「作」の引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	が「作」以上の目次名称	BCCCQ10-2		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)		
	Pubmed ID	1583176		
	医中誌 ID			
	雑誌名	J Am Acad dermatol		
	雑誌 ID			
	巻	26		
	号	5		
	ページ	754-6		
	ISSN ナンバー	0190-9622		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	1992		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Bieley HC	Department of Dermatology and Dermatologic Surgery, University of Miami, Florida
その他著者 1		Kirsner RS		
その他著者 2		Reyes BA		
その他著者 3		Garland LD		
その他著者 4				
その他著者 5				
その他著者 6				
その他著者 7				

一次研究の 8 項目	目的	所患陽性の BCC に対して、MMS を用いて残存腫瘍を検討した		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究		
	セッティング	マイアミ大学		
	対象者	77 症例 78 切片 不完全切除の BCC		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	組織学的に不完全切除と診断		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
		1	MMS による腫瘍残存の有無	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
		2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
		4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	55% に残存腫瘍が確認され、2 回以上の追加 MMS を必要とした。 2 stages 25 例 (32%)、3 stages 10 例 (13%)、4 stages 3 例 (4%)、 5 stages 5 例 (6%) 特に MMS の回数が多い部位は鼻、前額、耳の 順である。		
結論	初回手術で辺縁陽性の BCC の場合、高い頻度で腫瘍残存が確認されるので、その場合の再切除を提唱した。			
備考				
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 組織学的な残存が確認された場合は再切除を要し、この場合の MMS を推奨している。		

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	The significance of incomplete excision in patients with basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	BCC患者における不完全切除の重要性	
診療科/担当情報	担当科での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	担当科上での自名称	BCCCQ10-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	3814899	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Plast Surg	
	雑誌 ID		
	巻	40	
	号	1	
	ページ	63-7	
	ISSN ナンバー	0007-1226	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1987	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Richmond JD	Plastic Surgery and Pathology, Bangour General Hospital
	その他著者 1	Davie RM	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	BCC 患者における不完全切除の重要性を検証		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	Bangour General Hospital		
	対象者	BCC に対する手術(全 850 例中)における不完全切除 67 例(1970 ~1979 年)。28 例(41%) は原発巣、39 例(59%) は再発例。		
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
	介入(要因曝露)	手術時の不完全切除		
	エンドポイント(アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	5年後の再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果	BCC に対する手術が不完全切除であった症例を追跡調査した。内訳は、ほとんどが顔面正中部であり、側方残存が 37 例、深部が 25 例、両方が 5 例であった。すぐに追加治療を行った 7 例は再発がみられなかった。経過観察とした群 60 例中 23 例は臨床的に再発がみられた。不完全切除が原因となった再発は側方深部の両方に出現した。特に放射線治療が行われていたケース、深部断端に再発しそれが皮膚で被覆されているケースでそのコントロールが難しくかった。			
	不完全切除と診断されたら、速やかに再切除を行うことが望ましい。			
	結論			
備考	レビュワー氏名			
	レビュワーコメント			
レビュワー氏名	神谷秀彦			
レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 不完全切除例に対して経過観察を行った症例の追跡調査は数少ない。部位、組織所見、再建方法も調査している点はユニークである。			

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Recurrence rate of positive margin basal cell carcinoma: results of a five-year prospective study	
	論文の日本語タイトル	辺縁陽性であった BCC の再発率：5 年間の追跡研究	
診療科/担当情報	担当科での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	担当科上での自名称	BCCCQ10-4	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	3968892	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Sug Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	28	
	号	1	
	ページ	72-4	
	ISSN ナンバー	0022-4790	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1985	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	De Silva SP	Division of Plastic Surgery, Johns Hopkins University
	その他著者 1	Dellon AL	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	辺縁陽性であった BCC の再発率：5 年間の追跡研究		
	研究デザイン	コホート研究		
	セッティング	大学病院 128 例と community hospital 125 例へ送られた症例の病理レポートから抽出		
	対象者	BCC に対する手術における不完全切除例 38 例を識別		
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)		
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)		
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)		
	介入(要因曝露)	手術時の不完全切除を追跡調査		
	エンドポイント(アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	5年後の再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果	BCC に対する手術が不完全切除であった症例を追跡調査したところ、14 例(41%)に再発がみられ、24 例には再発がみられなかった。再発までの期間は平均 24.6 ヶ月。腫瘍が再発しない患者における平均フォローアップ期間は 61.4 ヶ月であった。再発群と非再発群の間で、年齢、性、腫瘍の部位に関しては有意差がみられなかった。			
	不完全切除の BCC を追跡調査した場合の再発率を検討したレポートである。組織学的な基準も導入すべきと主張している。			
	結論			
備考	レビュワー氏名			
	レビュワーコメント			
レビュワー氏名	神谷秀彦			
レビュワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 不完全切除例が再発するかどうかは、宿主側の条件等の様々な要因が関与する。			

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prediction of recurrence in incompletely excised basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル	不完全切除された BCC における再発予測	
診療* 仕* り* 情報	* 仕* り* での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	* 仕* り* 上での目次名称	BCCCQ10-5	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	4001206	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plast Reconstr Surg	
	雑誌 ID		
	巻	75	
	号	6	
	ページ	860-71	
	ISSN ナンバー	0032-1052	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1985		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Dellon AL	Division of Plastic Surgery at Johns Hopkins Hospital
	その他著者 1	DeSilva S	
	その他著者 2	Connolly M	
	その他著者 3	Ross A	
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	不完全切除された BCC における再発予測因子として組織学的基準を検討した	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	大学病院と community hospital	
	対象者	BCC 不完全切除例(大学 128 例と Community hospital 125 例;1977~1978 年)のうち、再発がみられなかった 33 例と再発がみられた 24 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	病理学的に不完全切除と診断	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5 年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	腫瘍辺縁の palisading の中に 75%以上の不規則な腫瘍索が含まれている場合は、その後 93%で再発がみられた。一方、不規則腫瘍索が 25%以下なら 5 年間の再発はみられなかった。不規則腫瘍索が 75%以上という基準は、他の組織学的な多様な条件の 39 倍もリスクが高くなる (P<0.001)。25~75%の間群で、宿主の反応が弱い場合のリスクは 4 倍となった (P<0.05)。その他では潰瘍があれば再発率が 2.8 倍 (P<0.01)、SCC への分化があってもリスクは増加しなかった。	
	結論	BCC において断端陽性であった場合の再発のリスクになり得る要因を個々に検討した。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) BCC における不完全切除例で、組織学的な再発リスク要因を検討した有用な論文である。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	A management approach to incompletely excised basal cell carcinoma of skin	
	論文の日本語タイトル	辺縁陽性であった BCC の管理	
診療* 仕* り* 情報	* 仕* り* での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	* 仕* り* 上での目次名称	BCCCQ10-6	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	1899855	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	20	
	号	3	
	ページ	423-8	
	ISSN ナンバー	0360-3016	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1991		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Liu FF	Princess Margaret Hospital, Toronto
	その他著者 1	Maki E	
	その他著者 2	Warde P	
	その他著者 3	Payne D	
	その他著者 4	Fitzpatrick P	
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	辺縁陽性であった BCC の管理	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Princess Margaret Hospital	
	対象者	BCC に対する手術における不完全切除例 187 例 (1970~1985 年)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	手術時の不完全切除	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	5 年後の再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	治療コスト	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	主な結果	不完全切除例の平均年齢 62 歳、頭頸部が 93%であった。うち 120 例は速やかに追加治療がなされ (治療群)、119 例が放射線、1 例が再切除であった。残りの 67 例はそのまま経過観察された (非治療群)。その後 5 年間の再発が見られなかったのは前者が 91%に対して後者は 61%であった (P=0.0001)。側方断端のみ陽性の場合に再発がみられたケースは 17%(3/18)であり、深部断端陽性では 33%(9/27)であった (P=0.2)。治療を行ったにもかかわらず再発した 85%(17/20)に対し、さらに放射線か手術の追加治療が行われた。速やかに治療を行った場合と経過観察とした場合の 10 年後の局所制御率は 92%と 90%であった (P=0.5)。経済的にも速やかに放射線療法を行った場合、コストはわずかに 223 \$ と算出された。	
	結論	不完全切除が確認されて速やかに治療を行う場合と、経過観察のみとした場合とで、局所制御率に関しては有意な差がなかった。特に高齢者の場合は不必要な治療を避けて経過観察とする方法を提唱する。	
備考			
レビューワーコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) BCC においては不完全切除例でも経過観察でよいというデータを示している。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Recurrence rates of treated basal cell carcinomas. Part 4: X-ray therapy	
	論文の日本語タイトル	基底細胞癌の再発率。パート4：放射線治療	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの日次名称	BCCQ10-7	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ IV ）	
	Pubmed ID	1624628	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Journal of Dermatologic Surgery and Oncology	
	雑誌 ID		
	巻	18	
	号	7	
	ページ	549-54	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1992	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Silverman M	Department of Dermatology, New York University School of Medicine
	その他著者 1	Kopf AW	
	その他著者 2	Bart R	
	その他著者 3	Grin C	
	その他著者 4	Levenstein M	
	その他著者 5	Gladstein A	
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	放射線治療後の BCC の再発に関わる因子を検証すること		
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究		
	セッティング	New York 大学		
	対象者	初回治療 BCC 862 例		
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)		
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)		
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)		
	介入 (要因曝露)	X 線照射		
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分	
	1	5年再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)	
2	長期控容性	1.主要 2.副次 3.その他 (2)		
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()		
主な結果	治療後 5 年目で全体の再発率は 7.4%。 多変量解析では、腫瘍径のみが有意な再発予測因子であった。			
結論	放射線療法は高リスク部位の頭頸部であっても、腫瘍径が 10 mm 以下であれば有効性が高い。特に手術適応がない高齢者には有用である。			
備考				
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜		
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 長期フォローがされており、再発危険因子のデータとしても信頼が置ける。		

形式：皮膚がん

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Recurrent basal cell carcinoma. A review concerning the incidence, behavior, and management of recurrent basal cell carcinoma, with emphasis on the incompletely excised lesion	
	論文の日本語タイトル	BCC の再発。その頻度、様式、再発 BCC の管理について、特に不完全切除病変に関する検証	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの日次名称	BCCQ10-8	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I ）	
	Pubmed ID	7367506	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Plast Reconstr Surg	
	雑誌 ID		
	巻	65	
	号	5	
	ページ	656-64	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1980	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Koplin L	Division of Plastic and reconstructive Surgery, at the USLA School of Medicine
	その他著者 1	Zarem HA	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	BCC の再発に関して、その頻度、様式、管理上の問題点について、特に不完全切除病変の扱いについて検討した	
	データソース	不明	
	研究の選択	不明	
	データ抽出	最近の文献より	
	主な結果	1) BCC の原発に関する部位と頻度：4 つの文献 3054 例から抽出した。顔面が 86%、頸部が 7%、体幹部が 7% を占めた。 2) 再発 BCC の部位と頻度：10 の文献 164 例から抽出した。顔面が 94%、頸部が 2.5%、体幹部が 3% であった。 3) 原発 BCC のうち切除辺縁が陽性と診断される頻度：3 つの文献 1498 例中、平均 6.5% であった。 4) 辺縁陽性で次の再発が起きる頻度：2 つの文献から、12~35% 5) 腫瘍残存があった場合速やかに再切除を行うかどうか：3 文献で、いずれも再切除後の再発は認めなかった。 6) 再発に関する要因は：不完全切除のみが危険因子であり、性、年齢、部位、サイズ、組織型、放射線治療の有無は無関係。	
	結論	組織学的に不完全切除である場合は、再度切除を追加すべきである。400× の視野でひとつの腫瘍細胞が含まれている場合は、12% の再発リスクがあり、高齢者であっても厳重なフォローアップを要する。	
備考			
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (I) そのときまでに発表されている論文を基に、組織学的に腫瘍残存が疑われる場合は積極的な再切除を主張している。 厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されており、それに準ずるものと評価した。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Characteristic of incompletely excised basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル	不完全切除された BCC の特徴	
診療科・科・科情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文上の目次名称	BCCQ10-9	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	9201177	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Med J Aust	
	雑誌 ID		
	巻	166	
	号	11	
	ページ	581-3	
	ISSN ナンバー	0025-729X	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Rippey JJ	Department of Anatomical Pathology, West Australian Center for Pathology, Perth
	その他著者 1	Rippey E	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	切除された BCC の辺縁への拡がりを組織学的にその特徴を検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Rural and metropolitan(Perth) Western Australia	
	対象者	268 症例 353 切片の BCC(1995 年に一人の病理医へ送られた BCC の症例)	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	組織学的に不完全切除と診断された	
	アウトカム (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	年齢、性、治療医師の専門、解剖学的部位、臨床所見、組織学的な増殖パターン、切除の完全性	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) 切除辺縁を超えて拡がっている BCC で、頭頸部の浸潤傾向のあるタイプは再発の可能性が高く、再切除を必要とする。	

形式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Incompletely excised basal cell carcinoma: a management dilemma?	
	論文の日本語タイトル	不完全切除された BCC の管理上のジレンマ	
診療科・科・科情報	論文での引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	論文上の目次名称	BCCQ10-10	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	8634041	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Aust N Z J Surg	
	雑誌 ID		
	巻	66	
	号	5	
	ページ	276-8	
	ISSN ナンバー	0004-8682	
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本文語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1996		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Sussman LA	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Middlemore Hospital, Auckland
	その他著者 1	Liggins DF	
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	不完全切除と診断された BCC に関して、速やかに再切除するか、臨床的に再発が確認されるまで経過をみるか、どちらの方法がよいか検討した	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	1986 年 Middlemore Hospital の組織記録	
	対象者	82 例 (1986 年における 723 例中) の不完全切除例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)	
	介入 (要因曝露)	手術時の不完全切除例を追跡し、その治療戦略を考察する	
	アウトカム (アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
レビューコメント	レビューワー氏名	神谷秀喜	
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 (IV) BCC における不完全切除例では、速やかに治療を行わなくても経過観察もひとつの方法であるというデータを示している。	

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Basal cell carcinoma of the face: surgery or radiotherapy? Results of a randomized study	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	B C C C Q 1 1 - 1 2	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ II ）	
	PubMed ID	?	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	76	
	号	1	
	ページ	100-6	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1997年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Avril MF	Gustave Roussy 研究所
	その他著者 1	Auperin A	同上
	その他著者 2	Margulis A	同上
	その他著者 3	Gerbault A	同上
	その他著者 4	Duvillard P	同上
	その他著者 5	Benhamou E	同上
	その他著者 6	Guillaume J-C	Centre Hospitalier Louis Pasteur
	その他著者 7	Chalon R	European d'Oncologie 研究所
	その他著者 8	Petit J-Y	Parc Euromedecine
	その他著者 9	Sancho-Garnier H	同上
その他著者 10	Prade M	同上	

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対し手術と放射線療法とのどちらが局所再発率が低いかを直接比較する。	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Gustave Roussy 研究所	
	対象者	347 症例が登録 適格規程：4 cm 以下、同意取得できた症例、頭頸部原発、5年以上の生存が期待できる症例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入（要因曝露）	手術：2 mm 以上のマージンをつけて切除 放射線療法（以下のいずれかの方法） 組織内照射：65-70 Gy/5-7 日間 表在 X 線照射(50kV)：一回 18-20 Gy で二回（二週間あける） 表在 X 線照射(85-250kV)：2-4 Gy で計 60 Gy	
	エンドポイント (7外注)	エンドポイント	区分
	1	再発	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (2)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	4 年の再発率 手術：0.7% (95%CI: 0.1-3.9%) 放射線療法：7.5% (95%CI: 4.2-13.1%) p=0.003 整容性（良好例） 手術：87%、放射線療法：69% p<0.01		
結論	4 cm 以下の小さな腫瘍では手術療法をまず検討すべきである。		

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	基底細胞癌の治療法を直接比較した貴重なデータ。 しかし、小さな腫瘍を中心とした試験であり、手術不能の部位などに本来放射線療法の意義があるにもかかわらず、この対象群での比較試験を行うこと自体が問題となるとの指摘もある。また、放射線治療の方法も統一されていないことや、現在使用されない照射法であることが問題点としてあげられる。 レベル II

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	システマティックレビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Interventions for basal cell carcinoma of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	B C C C Q 1 1 - 1	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (1)	
	Pubmed ID	12804465	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cochrane Database Syst Rev.	
	雑誌 ID		
	巻		
	号	2	
	ページ	CD003412	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2003 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Bath FJ	The Cochrane Collaboration
	その他著者 1	Bong J	同上
	その他著者 2	Perkins W	同上
	その他著者 3	Williams HC	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	基底細胞癌の治療法をシステマティックレビューする
	データソース	Cochrane Database
	研究の選択	病理学的確定診断があった報告のみを選択
	データ抽出	報告の抽出は二人の独立したレビューアーにより行った
レビューワーコメント	主な結果	手術と放射線治療を直接比較したランダム化比較試験は 1 件のみ 手術後と照射後の局所再発のオッズ比：0.09 (95%CI 0.01-0.67) で手術療法が優れている(手術：1/174, 照射：11/173) 手術と放射線の整容性の比較(良好 手術 87%>照射 69%) 放射線治療後は色素沈着と毛細血管拡張が出現(65%/4年) Cryosurgery は便利で安価(手術との局所再発率に差なし) オッズ比：0.23 (0.01-6.78) 放射線治療と cryosurgery で 1 年の局所制御率は照射が有意に良好 オッズ比：14.80 (3.17-69)
	結論	多くの試験はリスクの低い症例を対象とした報告であるが、手術と放射線治療が最も有効であり、再発率が低い。特に手術による局所制御率はより高い、他の治療も有用であろうが、手術との有用性の比較がなされていない。より悪性度の高い腫瘍に関してはランダム化比較試験が必要。
	備考	
	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	コクランレビューで信頼度は高い。しかし、ランダム化比較試験は一つしかなく、この試験では放射線治療の方法が統一されていない。通常我々が行う放射線治療で、色素沈着と毛細血管拡張が 65%の症例に出現するのは考えたい。 レベル I

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Prediction of subclinical tumor infiltration in basal cell carcinoma	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	B C C C Q 1 1 - 9	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究(コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究(症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)	
	Pubmed ID	1860987	
	医中誌 ID		
	雑誌名	J Dermatol Surg Oncol	
	雑誌 ID		
	巻	17	
	号	7	
	ページ	574-8	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1991 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Breuninger H	Tuebingen 大学
	その他著者 1	Dietz K	同上
	その他著者 2		
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌の subclinical な浸潤を予測し、適切な切除断端を決める	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Tuebingen 大学	
	対象者	初回治療 1,757 病変、再発 259 病変 初回治療 結節性病変：916 病変、線維性病変：230 病変、表在性病変：258 病変、その他：353 病変	
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別せず (3)	
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女別せず (3)	
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別せず (22)	
	介入(要因曝露)	2-6 mm の切除マージンをつけて切除 水平方向と垂直方向の腫瘍径を測定	
	エンドポイント(7外)	エンドポイント	区分
		1	切除断端率
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ()
主な結果	切除断端率(グラフより読み取り)		
		腫瘍径 <10 mm	切除マージン 2 mm 5 mm
		>20 mm	30% 5%
		腫瘍の形態 結節性	35 10
		線維性	50 20
		結節性 腫瘍径<10mm	30 5
		>20mm	60 25
	線維性 腫瘍径<10mm	40 10	
	>20mm	65 35	
結論	Subclinical な浸潤は腫瘍径、腫瘍の形態に依存する。		

	備考	
レビュワーコメント	レビュワー氏名	鹿間 直人
	レビュワーコメント	切除術および放射線療法を行う際に治療範囲を決定する貴重な資料となろう。 Figure 6 の腫瘍径<10mm と>20mm の記載が間違っている。逆であるはず。 レベル 1V

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Electron beam therapy is not inferior to superficial x-ray therapy in the treatment of skin carcinoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	BCCCQ11-16	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	7635774	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	32	
	号	5	
	ページ	1347-50	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1995 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Griep C	Rijnsburgerweg 大学病院
	その他著者 1	Davelaar J	同上
	その他著者 2	Scholten AN	同上
	その他著者 3	Chin A	同上
	その他著者 4	Leer JW	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	皮膚癌に対し電子線照射が表在 X 線照射と同等の効果を持つかを検討	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Rijnsburgerweg 大学病院	
	対象者	基底細胞癌 (295 例)、扁平上皮癌(94 例) 平均年齢 71.5 才 男性：251 例、女性：138 例	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (15)	
	介入 (要因曝露)	表在 X 線照射：99 例 一回線量 6-10 Gy、6-10 回、マージン 0.5-1cm 電子線照射：290 例 (4~12MeV) 一回線量 3 Gy 週 4 回、17-18 回 (計 51-54 Gy)、 マージン 1-1.5cm、copper foil (皮膚補正) 大きな腫瘍では、2 Gy/回、週 5 回、計 60 Gy	
	エンドポイント (7714)	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (3)	
3		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
4		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
5		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	全体の局所制御率：95.1% 表在 X 線照射：97%、電子線照射：94.5% 小さな腫瘍（照射野<10 cm ² ）の局所再発率：2.2% 大きな腫瘍（照射野>50 cm ² ）の局所再発率：13.8% 基底細胞癌の局所再発率：4.1% 扁平上皮癌の局所再発率：7.5% 整容性は良好 (91%) 表在 X 線より電子線照射が優れている (Good: 約 80% vs. 約 50%、Fair: 約 1% vs. 約 15%)		

	結論	電子線照射は表在 X 線照射と局制御率において同等の成績であった。また腫瘍が大きい場合においても良好。他の報告で電子線照射が劣るとの報告は技術的要因がある。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	表在 X 線照射は一回線量が極めて高い。この他の報告を含め、放射線治療に伴う結合織の線硬化による引きつれという毒性が現在通常用いられる電子線で一回線量を 2~3 Gy 程度とした場合にはそう多くはないはずであり文献を読む際に注意が必要。 表面補正をするなどの表面線量に対する配慮が重要なポイントの一つ。 レベル IV

レビュー研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	レビュー	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Principles of management of basal and squamous cell carcinoma of the skin.	
	論文の日本語タイトル		
診察ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	B C C C Q 1 1 - 4	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究 (コホート研究や症例対照研究) V. 記述研究 (症例報告やケースシリーズ) VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (II)	
	PubMed ID	7804997	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	75	
	号		
	ページ	699-704	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1995 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Fleming ID	テネシー大学
	その他著者 1	Amonette R	同上
	その他著者 2	Monaghan T	同上
	その他著者 3	Fleming MD	同上
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

レビュー研究の 6 項目	目的	皮膚基底細胞癌および扁平上皮癌の治療に関するレビューを行う。
	データソース	記載なし
	研究の選択	記載なし
	データ抽出	記載なし
	主な結果	5 年無再発生存率 切除術：89.9%、Mohs 手術：99.0%、放射線療法：91.3% 切除術：最も多く用いられる治療法。最低 5 mm 以上のマージンを付けて切除。 Mohs 手術：(利点) 局所制御率が高い。局所麻酔で施行可能、安価。(欠点) 再建が必要となる可能性がある。単純切除より高価。 放射線療法：(利点) 麻酔不要、鼻や目などにも適応可能、高齢者にも適応可能、大きな病変にも適応可能。(欠点) 高価、断端を評価できない、発癌性。 リンパ節転移例では、手術と放射線療法が行われる。
	結論	単純切除、Mohs 手術、放射線療法それぞれに利点と欠点があり、両者を理解して治療法を選択する必要がある。
備考		
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	治療法全体を見渡したわかりやすいレビュー。厳密にはシステマティック・レビューではないが、詳細に検討されており、それに準ずるものと評価した。 レベル I

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Treatment of basal-cell carcinoma: comparison of radiotherapy and cryotherapy	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドラインでの目次名称	B C C C Q 1 1 - 1 3	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（II）	
	Pubmed ID	3514075	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Clin Radiol	
	雑誌 ID		
	巻	37	
	号	1	
	ページ	33-4	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	1986年		
著者情報	氏名	所属機関	
	筆頭著者	Hull VL	Royal South Hants 病院
	その他著者 1	Leppard BJ	同上
	その他著者 2	McGill J	同上
	その他著者 3	Kassler ME	同上
	その他著者 4	White JE	同上
	その他著者 5	Goodwin P	同上
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	基底細胞癌に対し放射線療法と cryotherapy のどちらが再発率が低いかを検証。	
	研究デザイン	ランダム化比較試験	
	セッティング	Royal South Hants 病院	
	対象者	93 例の基底細胞癌 発生部位：顔面・鼻 70 例、眼瞼 9 例、体幹部 14 例 腫瘍径：1 cm 未満 38 例、1~2 cm 48 例、2 cm 超 7 例	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず (3)	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず (3)	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず (22)	
	介入（要因曝露）	放射線療法 表在 X 線装置 (130kV) 7 Gy x 5 回、6.5 Gy x 3 回、3.75 Gy x 10 回 Cryotherapy -25 度~30 度で 1 分間/1 回、2 回/病変	
	エンドポイント (7/9/10)	エンドポイント	区分
	1	局所再発率	1.主要 2.副次 3.その他 (1)
	2	整容性	1.主要 2.副次 3.その他 (2)
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ()
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	再発率 放射線療法 4%、cryotherapy 39% 整容性 放射線療法 スコア 1.35、cryotherapy 1.43 (有意差なし) その他、痛み、出血、浸出液などは両者に差なし		
結論	基底細胞癌では cryotherapy に比べ放射線療法の再発率が低い。		

	備考	
	レビューワー氏名	鹿間 直人
レビューワーコメント	レビューワーコメント	基底細胞癌で最も標準的治療と考えられる手術療法をコントロールアームにしておらず、この試験では放射線療法と cryotherapy を比較しており、やや違和感あり。放射線療法に関しても現在頻用されるスケジュールとは言えない。登録症例数の設定の根拠も示されていない。95%信頼区間も示されていない。Intention-to-treat での解析もされていない。ランダム化比較試験のなかでは質の悪いものと判断せざるを得ない。 レベル II

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy for locally advanced basal cell and squamous cell carcinomas of the skin	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上の目次名称	B C C C Q 1 1 - 1 4	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー/メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	15380573	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	60	
	号	2	
	ページ	406-11	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
発行年月	2004 年		
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Kwan W	British Columbia Cancer Agency
	その他著者 1	Wilson D	同上
	その他著者 2	Moravan V	同上
	その他著者 3		
	その他著者 4		
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	局所進行期の基底細胞癌と扁平上皮癌の放射線治療成績を検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	British Columbia Cancer Agency	
	対象者	基底細胞癌(61例) T1:0%、T2:13%、T3:61%、T4:23% 扁平上皮癌(121例) T1:6%、T2:19%、T3:41%、T4:22% リンパ節転移:基底細胞癌 0%、扁平上皮癌 31% 原発部位:基底細胞癌(頭頸部 100%) 扁平上皮癌(頭頸部 84%、体幹部 9%、四肢 7%) 治療:初回治療 45~49%、再発時としての治療 51~55%	
	対象者情報(国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍別別せず (3)	
	対象者情報(性別)	1.男性 2.女性 3.男女別別せず (3)	
	対象者情報(年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中年 9.乳幼児・小児・青年・中年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中年 12.小児・青年・中年・老人 13.青年・中年 14.青年・中年・老人 15.中年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中年 18.乳幼児・老人 19.小児・中年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢別別せず (14)	
	介入(要因曝露)	線量:コバルト、4MV以上のX線、電子線を症例毎に選択 線量:35Gy/5回、40-45Gy/10回、50-55Gy/15-20回、60Gy/25回、60-70Gy/30-35回	
	アウトポイント(アウトカム)	エンドポイント	区分
	1	生存率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	2	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	3	再発形式	1.主要 2.副次 3.その他 (3)
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ()
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ()
6		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
7		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
8		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
9		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
10		1.主要 2.副次 3.その他 ()	
主な結果	4年生存率:基底細胞癌 100%、扁平上皮癌 60% 4年局所制御率:基底細胞癌 86%、扁平上皮癌 58% 再発期間の中央値:40.5か月(基底細胞癌)、5か月(扁平上皮癌) 扁平上皮癌で死亡した37例中、30例が局所、7例が遠隔転移が原因 予防的リンパ節領域への照射は局所領域リンパ節の制御に寄与しない		
結論	基底細胞癌は局所進行期でも放射線治療が有効。 一方、扁平上皮癌では放射線治療後早期に再発する症例もあり不幸な転帰をとる症例がある。局所再発が死因の最多であった。		

	備考	
レビューコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	進行期のみを対象とした過渡的研究 レベル I V